

6/13 木
梅田 18:30 ~ 21:00

都市ビジネスコースシンポ「地方発・世界ブランドの確立～原材料にこだわり、繊細で独創的なファッションを発信する～」



【趣旨】佐藤繊維株式会社は、1932年、山形県寒河江市にて佐藤長之助により創業。当時は近隣の農家に羊の飼育を委託し、その原毛から手紡ぎによる糸づくりが始まった。現在は、工業用紡績糸の製造から製品の企画、製造、販売まで一貫して自社で行う。本セミナーでは、どのようにして、原材料の選定から糸づくりへ、そして繊細で独創的なファッションを生み出し、地方発の世界ブランドを確立したのかについて語る

【講師】佐藤正樹氏（佐藤繊維代表取締役 CEO）
佐藤繊維 4 代目社長であり糸作家/デザイナー。

東京で学業を終えた後、数年のアパレル経験を経て 1992 年山形に戻る。2005 年に代表取締役社長に就任。原材料へのこだわりは強く、世界各地の農場まで足を運び、直接コミュニケーションを重ね、原料を探す。それらから生まれる糸は独創的なものやとても繊細なもので世界最細と言われるモヘア糸もそのひとつ。また製品のベースとなる複雑なテキスタイルは多種多様な複数の糸から作られオリジナリティ豊か。

【司会】小関珠音（都市経営研究科准教授）

博士（学術）東京大学。一橋大学経済学部卒業後、日本興業銀行等へ勤務。一橋大学大学院（修士（経営）及修士（経営法））修了後、複数のベンチャー企業の創業及び経営に携わりと同時に、横浜市立大学、山形大学産学連携等を経て、2016 年より本学創造都市研究科准教授。2018 年より現職。研究テーマは、大学発ベンチャー、イノベーション、及び戦略的提携。著書に『企業提携と市場創造—有機 EL 分野における有機的提携』（白桃書房）など。



6/19 水
梅田 18:30 ~ 21:00

都市政策・地域経済コースシンポ「公立図書館と地域社会の絆 part2—甲州市 / 瀬戸内市」

【趣旨】昨年度に続き、「地域における知の拠点」であるとともに地域文化の継承、地域住民等の出会いの場の提供を通じて地域社会のニーズを汲み取り、地域価値創造に邁進されている公立図書館関係者と有識者を講師としてお招きします。公立図書館の運営には自治体の直営のみならず指定管理者制度の活用もありますが、自治体の具体的な取組みや公共図書館における今日の課題への対応について講師の皆さまからお話しただき会場の皆さまと意見交換を行います。



【司会】遠藤尚秀（都市経営研究科教授）関西学院大学大学院経営戦略研究科博士課程後期課程修了。博士（先端マネジメント）、公認会計士、英国勸許公共財務会計士。会計専門職大学院・自治大学校・福知山公立大学地域経営学部等で

公会計論・内部統制論・管理会計関連科目について教鞭をとりつつ国家 / 地方公務員・地方議員向け研修、包括外部監査等に携わる。グッド・ガバナンスを参考にしつつ、公会計をベースに地域経営論を研究。



【パネリスト】古屋美智留氏（甲州市立勝沼図書館司書）1995 年甲州市役所入庁。教育委員会教育総務課を経て、2011 年度から生涯学習課に勤務。勝沼図書館の特徴として、開館以来 20 年以上地域の歴史・文化・産業「ぶどうとワイン」に関する資料収集と地域研究「ぶどうとワインの資料展」を毎年実施。



【パネリスト】嶋田学氏（奈良大学文学部文化財学科教授・元瀬戸内市民図書館館長）1987 年大阪府豊中市立図書館勤務。複数の図書館に勤め 2016 年度から 3 年間、瀬戸内市民図書館館長に就任。2019 年度より現職。市民協働による地域活性化を促す公共図書館経営論等について研究。



【パネリスト】樹下康治氏（京都市西京区副区長）大阪市立大学大学院創造都市研究科にて、公共図書館における業務の変遷や運営形態（直営・指定管理）による課題等を研究。その成果は「公共図書館の運営形態による今日の課題への対応に関する考察」として高く評価される。



【司会】永田潤子（都市経営研究科教授）元大阪市政改革委員、海上保安大学校卒、埼玉大学政策科学研究科（修士・政策分析）、大阪大学大学院経済学研究科博士課程後期課程単位取得満期退学。著書に『パブリックセクターの経済・経営学』『図書館経営論』等がある。

7/4 木
梅田 18:30 ~ 21:00

都市行政コースシンポ「地域子ども支援の課題を実証分析し提言する」



【パネリスト】森久佳氏（大阪市立大学大学院文学研究科（教育学専修）准教授）1975 年生まれ、兵庫県出身。独立行政法人教職員支援機構客員フェロー。大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程修了。2013 年より現職。博士（文学）。専門は教育方法学（授業・カリキュラム開発の実践史、教職の専門性・専門職性の高度化、学校・地域の連携・協働等）。共著『教師の仕事と求められる力量』（あいり出版、2011）。



【パネリスト】水上啓吾（都市経営研究科准教授）横浜国立大学経済学部卒業、東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学、博士（学術）。鳥取環境大学地域イノベーション研究センター講師、本学創造都市研究科准教授を経て 2018 年より現職。専門は財政学、地方財政論。主著『ソプリン危機の連鎖—ブラジルの財政金融政策』ナカニシヤ出版。



【パネリスト】岡本聡子氏（NPO 法人ふらっとスペース金剛元代表理事）大阪市立大学創造都市研究科都市公共政策分野修了。「母親の育児不安解消における地域子育て支援拠点事業の効果—利用者アンケートを通じた測定と検証」で若野賞受賞。社会福祉士、保育士、精神保健福祉士。



【パネリスト】海老名ゆりえ氏（大阪府内保育園園長）民間企業で営業経験を積んだのち、大阪府泉南市認定こども園勤務、その後大阪府守口市の小規模保育園で園長を務める。大学院では保育料無償化による影響を調査。



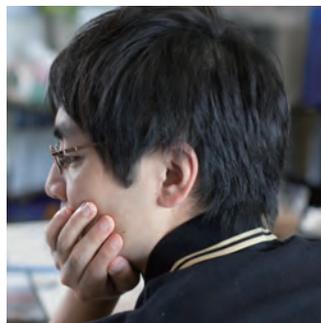
【パネリスト】松本学氏（特定非営利活動法人プレーンヒューマンティニー代表理事）2010 年関西学院大学総合政策学部を卒業し、TOTO 株式会社に入社。2013 年同社を退職し公益社団法人チヤンス・フォー・チルドレンに入社。大阪市塾代助成事業や東日本大震災で被災したこどもたちへの教育支援活動に従事。2015 年同社を退職し特定非営利活動法人プレーンヒューマンティニーへ入社。2018 年大阪市立大学大学院修士課程を修了。2018 年より現職。



【司会】五石敬路（都市経営研究科准教授）東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。アジア開発銀行研究所、東京市政調査会を経て、2012 年より大阪市立大学大学院創造都市研究科准教授、2018 年より現職。『生活困窮者支援で社会を変える』（法律文化社、2017 年）など。

7/5 金
梅田 18:30 ~ 21:00

都市政策・地域経済コースシンポ「地域アーツカウンシルのこれからーアーツカウンシル東京」



【基調講演】
佐藤李青氏
(さとう・りせい
アーツカウンシル東京プロ

ラムオフィサー) 東京大学大学院人文社会系研究科(文化資源学)博士課程満期退学。企業メセナ協議会インターン、小金井市芸術文化振興計画策定における小金井市と東京大学の共同研究グループ、小金井アートフル・アクション! 実行委員会事務局長等を経て、2011年6月より現職。東京アートポイント計画、Tokyo Art Research Lab, Art Support Tohoku-Tokyo(東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業)を担当。共著に『これからの文化を「10年単位」で語るためにー東京アートポイント計画 2009-2018』(アーツカウンシル東京、2019年)

【趣旨】地方アーツカウンシルが各地に作られ、果たしていくべき役割が問われています。10名以上のプログラムオフィサーが配置され日本型アーツカウンシルの先導的役割を果たしてきたアーツカウンシル東京で、プログラムオフィサーを務める佐藤李青氏に、アーツカウンシルやプログラムオフィサーの役割・活動についてお話しいたします。佐藤氏と大阪アーツカウンシルのメンバーとの意見交換等を通して、地域アーツカウンシルの果たすべき役割、大阪の文化政策の今後等について、議論を深めていきたいと考えています。



【コメンター】
中西美穂氏(なかにし
みほ、大阪アーツカ
ウンシル統括責任者) 京都
精華大学生だった頃(19
87-1991)に京都大学西
部講堂連絡協議会に参
加、文化事業の企画運
営と芸術の公共性につ
いて学ぶ。パリ遊学を経て、
大阪市芸術文化アクシ
ョンブランド作成業務に
携わる(1999-2006)。築港赤
レンガ倉庫を拠点にした
NPO大阪アーツポリアなどの
非営利芸術事業に関わり
ながら大阪大学大学院文学
研究科に社会人入学。2018
年4月より現職、大阪府市
文化振興会議委員他。主
な共著に『アートミーツ
ケア叢書:病院のアート
医療現場の再生と未来』
(生活書院、2014年)。

【司会】
吉田隆之

(よしだたかゆき、
大阪市立大学大
学院都市経営
研究科准教授/大
阪アーツカウ
ンシル部会委員) 愛
知県庁在職時に
あいちトリエン
ナー 2010 長者町
会場を担当。職務
を離れてからも
長者町地区内外
でアート活動や
まちづくりに関
わる。2018年よ
り現職。京都大
学公共政策大
学院修了、東京
芸術大学大
学院音楽研究
科博士後期課
程音楽文化
学専攻芸術環
境創造分野修
了。博士(学術)
。研究テーマは、
自治体文化政
策・アートプロ
ジェクト論。著
書に『トリエン
ナーはなにを
めざすのかー
都市型芸術祭
の意義と展望』
(水曜社、2015
年)。



7/5 金
梅田 18:30 ~ 21:00

都市行政コースシンポ「津軽選挙ーその現状と展望」



【基調講演】藤本一美氏(専修大学名誉
教授・日本臨床政治学会理事長)。
1944年青森県五所川原市生まれ。国立国会
図書館調査員、明海大学不動産学部教授、
専修大学法学部教授を経て現在に至る。『
青森県の初代民選知事 津島文治』(北方新
社、2018年)など著書多数。

【司会】高野恵亮(都市経営研究科
教授) 法政大学大学院社会科学研
究科博士後期課程修了・博士(政治学)。
著書に『戦後国会における議員立法』
(志学社、2016年)、共著書に『都市行政
の最先端』(日本評論社、2019年)、
『現代日本宰相論』(龍溪書舎、2012
年)など。

【趣旨】「選挙」は、いうまでもなく民主政治における最重要なプロセスの一つであり、その実施には何よりも公正、中立であることが求められます。しかしながら選挙にまつわる不正というものは、今においても後を絶たず発生しています。今回は「津軽選挙」を題材に、選挙における不正の現状を見るとともに、いかにして不正な選挙をなくしていくかについて考えていきます。



7/10 水
梅田 18:30 ~ 21:00

都市ビジネス／都市政策・地域経済コース合同シンポ「AIの衝撃(2)ービジネス、社会経済はどう変わるのか？」



【パネリスト】今井隆志氏(株式会社
エナリス執行役員、エナリスみらい
研究所プレジデント) 東京大学工学部、
米エール大学大学院、一橋大学金融工
学MBA卒。米国公認会計士。三菱総研
から外資系金融機関などを経て、現職。
若いときのシミュレーション計算の経験
をもとに

現在、AIのフィンテックや電力システムへの応用などを研究しています。

【趣旨】現在は「第四次産業革命」の時代、又は「ソサエティ5.0」の時代と呼ばれています。イノベーション論の中で、「GPT」という言葉が、使われ始めています。GPTとは、日本語では、「汎用目的技術」といえるもので、あらゆる社会・経済・経営問題の解決やシステムの開発に利用可能な技術の総称といえます。AIはまさにそれです。今のAIは「第三世代」と言われ、やっと現実的な実用性が発揮できるようになりました。このAIを経済・経営・社会に徹底的かつ全面的に、導入・応用することで、それぞれの変革を目指します。本シンポジウムでは、その現時点での可能性と課題を議論します。

【司会・パネリスト】近藤彦(都市経営
研究科教授) 広島大学大学院生物圏科学
研究科博士後期課程単位取得退学後、小
樽商科大学、島根県立大学などを
を経て現職。その間、東京大学社会
情報研究所、北東アジア地域研究
センター、科学技術振興機構の研
究員を歴任。現在の研究対象は情
報経済論、情報社会論、情報経営
論。著書論文としては『IT資本論』、
『web2.0の成功学』、『経験の社会
経済』など多数。

